

加茂川河口 干潟の生き物調査 報告 (令和 7 年 9 月 20 日実施)

令和 7 年 9 月 20 日（土曜日）、加茂川河口干潟で生きもの調査（市民参加型）を行いました。

【はじめに】

西条市加茂川河口には、貴重な干潟が残されています。ここでは、西条市役所主催による干潟の生き物観察会や、NPO 法人 西条自然学校による調査、全国の干潟研究者たちによる調査研究が行われてきました。

平成 26 年（2014 年）に、市民参加型の干潟の生き物調査が実施されました。当時の結果と報告は、西条市役所 HP に掲載されています。

[加茂川河口 生きもの調査 結果報告 H26.7.12 - 愛媛県西条市ホームページ](https://www.city.saijo.ehime.jp/soshiki/kankyo/chosakekka260712.html)

<https://www.city.saijo.ehime.jp/soshiki/kankyo/chosakekka260712.html>

昨年に引き続き、11 年前と同じ手法を用いて、市民参加型の生き物調査を実施しました。



【調査結果】

	表層(S)		底土中(B)		合計(S+B)	
	発見班数	発見率(%)	発見班数	発見率(%)	発見率(%)	優占度
軟体動物門(巻貝)						
マルウズラタマキビ	2	20	0	0	20	++
レイシガイ	1	10	0	0	10	+
イボニシ	2	20	1	10	30	++
アカニシ	2	20	1	10	30	++
アラムシロ	8	80	6	60	100	+++
軟体動物門(二枚貝)						
カリガネエガイ	3	30	0	0	30	++
マルミミエガイ	1	10	0	0	10	+
シオフキ	1	10	7	70	70	+++
ユウシオガイ	0	0	3	30	30	++
ニッコウガイ科	0	0	4	40	40	++
オキシジミ	0	0	3	30	30	++
環形動物門(多毛類)						
チロリ科 Glycera属	0	0	3	30	30	++
チロリ科 不明種	0	0	1	10	10	+
イトメ	0	0	1	10	10	+
コアシギボシイソメ	0	0	3	30	30	++
節足動物(エビ・カニの仲間)						
クルマエビ科	0	0	1	10	10	+
スジエビモドキ	1	10	0	0	10	+
セジロムラサキエビ	1	10	1	10	10	+
テッポウエビ	0	0	1	10	10	+
イソテッポウエビ類	2	20	1	10	20	++
ハサミシャコエビ	0	0	1	10	10	+
ニホンスナモグリ	3	30	6	60	80	+++
アナジャコ類	0	0	1	10	10	+
ユビナガホンヤドカリ	8	80	3	30	90	+++
トリウミアカイソモドキ	1	10	6	60	60	++
ケフサイソウガニ	1	10	0	0	10	+
タカノケフサイソウガニ	1	10	1	10	20	++
ヒメアシハラガニ	1	10	1	10	20	++
コメツキガニ	2	20	4	40	50	++
チゴガニ	0	0	6	60	60	++
オサガニ	2	20	3	30	50	++
ヤマトオサガニ	2	20	8	80	80	+++
その他						
ヒラムシ類(扁形動物)	1	10	2	20	20	++
ヒモムシ類(紐型動物)	0	0	2	20	20	++
ヒモイカリナマコ(棘皮動物)	0	0	1	10	10	+
ナベカ(魚類)	1	10	1	10	20	++

調査地域: 加茂川左岸 龍神社前

調査日時: 2025年 9月 20日 15:00~17:00

10班(ひと班1~4名)で実施

合計(S+B)は、SとBを区別せずに集計した発見率(何班が発見できたか)

優占度: +++, 優占種(発見率70%以上)

++, 普通種(70%未満、10%あるいは発見者数2以上)

+, 少数種(10%未満あるいは1班だけの発見)

【コメント】

執筆：光澤 安衣子（海星研）

調査リーダー：加藤 健司（新江ノ島水族館）

高田 光紀（四国水族館）

山本 貴仁（西条自然学校）

昨年に引き続き、市民参加型干潟調査を実施しました。参加者の皆さん、干潟の泥に足をとられながらも、たくさんの生き物を発見してくれました。およそ 10 年前と同じ場所・同じ手法で調査を行ったことで、過去と比較できるデータを集めることができました。参加者の皆さん、本当にありがとうございました。

採集された生物は、全部で 35 種（不明種を除く）に分類できました。2014 年には 41 種が確認できたことから、発見種数は 11 年前と比べて少し減少しましたが、発見班数が 1 班のみの生物も多かったことから、各班の採集行動が大きく結果に反映されています。

10 班に分かれて採集する手法では、発見した班の多さで、生き物の多さを知ることができます。とくに多かった生き物は「優占種（ゆうせんしゅ）」と呼ばれ、その環境の特徴を表わします。

今回の結果から、優占種は、アラムシロ（巻貝）、シオフキ（二枚貝）、ニホンスナモグリ（エビ・カニの仲間）、ユビナガホンヤドカリ（ヤドカリ）、ヤマトオサガニ（カニ類）などでした。見分けが難しいものもありましたが、たくさん採集されていたので、なじみも湧いたのではないでしょうか。

11 年前と優占種のデータと比較すると、ニホンスナモグリは発見数が増加していました（2014 年の発見率：45.5% → 今回の発見率：80%）。ニホンスナモグリは、エビのような体をしていますが甲羅は柔らかく、動きの遅い生き物です。干潟の泥の中に深い巣穴の中で暮らしています。2、3cm の小さな個体もたくさん見つかったことから、この場所で生まれて育っていることがわかります。

また、トリウミアカイソモドキという小さなカニも発見率が増加していました（2014 年の発見率：18.2% → 今回の発見率：60%）。このカニは、干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会 編 2012）によると、準絶滅危惧種（現時点での絶滅の危険度は小さいが、今後「絶滅危惧」として上位ランクに移行する可能性がある種）とランク付けされています。ニホンスナモグリの巣穴に共生することが知られていますので、今後、宿主であるスナモグリが減少すれば、住む場所を失ってしまう種です。また、瀬戸内海に特徴的なカニですから、今後も動向を見守っていきたい種のひとつです。1cm 以下と小さかったにもかかわらず、見逃さずにきちんと採集してもらえたことは、たいへん貴重なデータとなりました。

分類群別にみると、貝類では、腹足類（巻貝の仲間）は表層に多く、二枚貝類と多毛類は底土中で多く発見されました。節足動物（エビ・カニの仲間）はもっと多く、17種が確認できました。11年前は、16種確認できましたので、種数としてはほとんど変化がない結果です。しかし、出現したカニの種類を比べてみると変化がありました。ヤマトオサガニがもっとも発見数が多いことは変わりません（2014年の発見率：81.8% → 今回の発見率：80%）が、オサガニ（9.1% → 50%）は増加していました。また、以前はこの場所では採集されなかったコメツキガニ（0% → 50%）とチゴガニ（0% → 60%）が、半数以上という高い発見率で採集されました。干潟に巣穴を掘って暮らすこれらのカニは、底質によって好みの生息場所があります。今回、発見数が増加したオサガニ、コメツキガニ、チゴガニは、どちらで粘りのある地面よりも、泥と砂が混じったさらさらとした砂泥質の地面を好みます。このように、11年前と出現種を比較すると、底質が変化してきていることが、生物相の変化からもわかります。

河口は、砂や泥が溜まりやすい地形です。加茂川でも、川底にたまつた砂や泥を取り除く浚渫（しゅんせつ）工事が定期的に行われています。砂や泥がたまることは自然な現象ですが、そのままにしておくと川が氾濫しやすくなってしまいます。防災上、必要な工事ですが、川からの栄養を含んだ豊かな水と砂や泥が、干潟の生き物たちを育んでいますので、生き物や環境への配慮も必要です。自然のままに豊かな生き物たちがいつまでも生息し続けること、災害に強い町であることの両立を考える際、今回の調査結果のような「どこに、どんな生き物がいる」という基礎的なデータはとても重要です。多くの人が、さまざまな立場から、干潟の重要性と保全について関心を持ち、この貴重な自然環境がよりよい形で保全されるために、このデータが役に立つことを期待しています。

【謝辞】

調査にご参加くださいり、お力を貸してくださいました以下の方々にお礼を申し上げます。
調査、実施協力：藤田 宜伸さん（東予郷土館）、河野 直子さん（西条高校 教諭）
参加者の皆さん：岡部 姫佳さん、鶴居 明歩さん、吉田 アツシさん、白川 小莉さん、
白川 光希さん、佐伯 恵子さん、佐伯 枝翠さん、田窪 惇眞さん、田窪 庄司さん、
藤田 由紀子さん、藤田 武さん、森本 佳美さん、森本 達晃さん、
安永 朗子さん、安永 孝和さん、佐々木 健一さん、佐々木 優さん
(西条高校) 川又 美晴さん、岡部 恭弥さん、岡部 琴生さん、有馬 虎弥汰さん、
東 快樹さん、鶴川 温己さん、青葉 碧音さん、島本 雅弘さん、越智 悠貴さん

最後に、市民参加型調査を主催し、企画、実施に際して多大なるご理解とご協力をくださいました西条市役所 環境政策課の青野 さや香さん、永井 宏武さん、渡部 佳奈さん他、課内の皆さんに、深くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

